

## 令和5年 阪南2区におけるアマモ養成活動の概要



(イメージ)

現在、大阪湾におけるアマモの分布は北端が二色の浜（貝塚市）ですが、CIFER・コアではこれをさらに北域に広げるため、二色の浜の北側約5 km 地点に位置し、将来海浜緑地となる計画の阪南2区海域において、アマモ場を造成するための方法を探っています。同海域では、既に特許を取得している浮体式構造物を用いたアマモの養成実験等も継続中ですが、ここでは、NPO 法人大阪海さくらと協力して進めているアマモ養成活動についてご紹介します。

大阪海さくらは、アマモ育成キットを使い、協力者が自宅で育てたアマモを大阪湾の浅海域に移植する活動に取り組まれています。CIFER・コアは令和3年・4年に大阪海さくらと協力し、阪南2区人工干潟にアマモ苗の移植を行いました。その後の調査でアマモの生育が見られませんでした（その後、令和5年6月に生育を確認）。このことから、令和5年はアマモ苗を養成カゴに移植し、水深の浅い海域に沈めることを試みており、移植直後の4月からアマモが自然に枯死する7月までの期間、育成状況の調査を行ってきました。



大阪海さくらの  
アマモ養成キット

### <アマモ苗の養成カゴへの移植 R5.3.11>



移植用の養成カゴと食害防止ネット



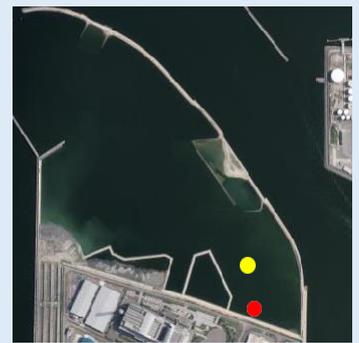
①養成キットで育てたアマモ苗を、砂を入れたカゴ(3個)に移植



②水深1mの静穏な海底に養成カゴと食害防止ネット(木製・鋼製2種類)を設置



③同じ海域で CIFER・コアと(株)総合水研究所が実験中のアマモ養成筏に1カゴを垂下



設置位置  
●養成カゴ・食害防止ネット 設置地点  
●アマモ養成筏 設置地点

## <調査① 海底に設置した養成カゴのアマモ>

食害防止ネットについては4月の調査で木製のネットが流されていたため、5月24日に養成カゴから海底に移植しました。鋼製のネット分についても6月17日に養成カゴを外し、同様に海底へ移植しています。

実験場所は閉鎖性の高い海域のため、浮泥が多いものの、海底に移植したアマモは順調に成長を続けました。4月の調査ではアマモが根付いている様子が見られ、5月～6月には成長・繁茂が確認されましたが、アマモが枯死する夏の時期に当たることから、6月から一部が枯れ始め、7月には枯れて残ったアマモが見られました。



【4.21 調査】



【5.24 調査】



【6.17 調査】



【7.21 調査】

## <調査② 筏に垂下した養成カゴのアマモ>

養成筏からアマモカゴを垂下する方法については実績があるため、移植分についても特に成長の良いアマモ株を選んだにもかかわらず、5月の調査では、一部の葉が茶色っぽく枯れ、葉長は移植時の約10cmから成長していない様子でした。他の実験用コンテナのアマモは順調に成長していたものの、移植したアマモカゴについては、その後の調査でも成長が見られませんでした。



【4.14 調査】移植後約1か月



【5.12 調査】葉に変色が見られる



【6.16 調査】ほぼ葉がない状態に

## <干潟に移植したアマモ>

令和3年・4年に人工干潟に移植したアマモは、その後の調査でも見つけることができませんでした。令和5年6月4日に移植場所付近でアマモの生育を確認することができました。これまで同干潟でアマモが見られることがなかったため、移植したアマモが根付き、地下茎を残していたと考えられます。



干潟で確認されたアマモ (6.17)